

横須賀市廃棄物減量等推進審議会（第79回）議事概要

- 1 日 時 令和5年(2023年)12月11日(月) 午後2時00分から4時00分まで
- 2 場 所 横須賀市役所 消防局庁舎4階 災害対策本部室
- 3 出席委員 青委員、上田委員、織田委員、笥委員、嘉山委員、北村委員、木谷畑委員、佐藤委員、長谷川委員、藤田委員、米村委員
- 4 事務局 環境部 山口部長
環境政策課 佐藤課長、大野田主査、大野、中村
廃棄物対策課 関澤課長
環境施設課 府馬課長
広域処理センター 山本所長
久里浜収集事務所 夏目所長
- 5 傍聴者 なし

6 議事内容

開会

- ・環境部長が委員へ委嘱書の交付
- ・環境部長挨拶
- ・事務局が定足数である半数以上の委員の出席を確認し、会議の成立を報告
- ・事務局が各委員を紹介
- ・事務局が事務局職員を紹介
- ・委員の互選により、佐藤委員が委員長に選任
- ・委員長が米村委員を委員長職務代理者に指名

議事

(1) 横須賀市廃棄物減量等推進審議会傍聴実施要領の一部変更について

○佐藤委員長

それでは議事に入ります。「横須賀市廃棄物減量等推進審議会傍聴実施要領の一部変更」について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

(資料1について説明)

○佐藤委員長

傍聴実施要領の案について、ご質問等のある方はいらっしゃいますか。
いないようですので、今後はこの傍聴実施要領に基づき実施していきたいと思いをします。

(2) ごみ処理基本計画の進行管理案について

○佐藤委員長

それでは議事を進めます。「ごみ処理基本計画の進行管理案」について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

(資料2について説明)

○佐藤委員長

ありがとうございます。令和3年度に策定したごみ処理基本計画の1年目にあたる令和4年度の進行管理の報告でございます。

これにつきまして、ご質問ご意見のある方はいらっしゃいますか。

○米村委員

重点施策の1つ目の「食品ロスに関する政策」についてです。啓発活動等を熱心にやっ
ていただいているようですが、食品ロスを何とかしたいと思った市民が、具体的にどのような
行動をとればいいのか分かるための情報や仕組み作りについては、どのように考えていますで
しょうか。

○佐藤委員長

市民の方がどのような行動を取ったらいいか、市として示したい点も含めて事務局からご
説明をお願いします。

○事務局

食品ロスにつきましては周知啓発等をしています。議題3に関連しますが、市の取り組み
や方針につきましては、食品ロス削減推進計画でまとめていきたいと考えております。

市民の方にどう行動していただくかにつきましては、大きな方向性はその計画でお示し
できると思います。

具体的な行動ということになりますと、日頃の周知啓発が挙げられます。

また、飲食店や食品販売店など、市民の方が直接食品と触れ合う場所では、料理の持ち帰
りや食品の手前取りといった行動が、既に行われている部分もあると思います。

市民の方々にそのような行動を意識していただくため、市民に対してだけではなく、市民
が食品に接している部分への啓発も必要になってくると考えておりますので、多方面から啓
発を進めていきたいと考えています。

○佐藤委員長

ありがとうございます。（米村委員が挙手しているのを見て）はい、米村委員。

○米村委員

食品を買いすぎないようにしたり、買ったものを使い切るといった努力は、市民の方々に対して、ホームページ等でも比較のお知らせしやすいと思います。

問題は、事業者の方々に対してで、これは事業者自身の努力で何とかするというよりも、飼料化や肥料化など、受け皿となる仕組みを作り、食品ロス自体を減らすだけではなく、発生した食品ロスを有効利用することで、結果としてロスを減らす方法もあると思います。

進行管理の中には、事業者を対象に食品ロスについてのヒアリングを行ったとの記載がありますが、その結果を踏まえ、市としての検討事項等は出てきましたでしょうか。

○佐藤委員長

ありがとうございます。（廃棄物対策課長が挙手しているのを見て）はい、廃棄物対策課長。

○廃棄物対策課長

平成 30 年に事業者を対象としたアンケート調査を実施しており、その結果、その時点で事業者のほとんどが、廃棄物の排出にかかる費用を削減するため、食品ロスの削減に取り組んでらっしゃるということがわかりました。

飲食店では、料理の提供量の調整による食べ残しが出ないメニュー設定や持ち帰りを実施しており、食品製造販売店については、ご覧になられたことのある方もいらっしゃると思いますが、割引販売や手前どりといった取り組みを実施されていることがわかりました。

○佐藤委員長

ありがとうございます。食品ロスについては、議事の 3 番で議論いただければと思います。他にご質問やご意見はありますか。（織田委員が挙手しているのを見て）はい、織田委員。

○織田委員

22 頁の別添資料 1 のごみ処理実績の 5 か年推移について、令和元年度から令和 2 年度にかけて不燃ごみが大幅に減少しているのはなぜでしょうか。

○事務局

エコミルが稼働し製品プラスチック等が燃やせるようになったため、製品プラスチック等の分別を不燃ごみから燃せるごみに変更しました。それに伴い、令和元年度は不燃ごみの排出量が 4,449 トンでしたが、令和 2 年度には 1,292 トンと大幅に減少しています。

○佐藤委員長

他にご質問やご意見はありますか。（木谷畑委員が挙手しているのを見て）はい、木谷畑委員。

○木谷畑委員

18 ページに災害廃棄物に対する取り組みの記載がありますが、これはまだ横須賀全体に周知されてなく、あまり目にしたことがないように思えます。

現在、危機管理課主導で避難所運営訓練を実施しており、自治会町内会も参加しています。

いつ災害が発生するかわかりませんので、災害廃棄物についても、各自治会町内会の方から意見を求めて案を出していただくなどの動きが大事だと思います。そして、環境政策課の方で、「こういう場合はこういうことをしなくてはいけない」といったことを取りまとめていただければと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございました。災害廃棄物対策について、市民の方がわかる形での資料の取りまとめが必要ということでご意見をいただきました。ごみ処理基本計画を策定する際にも災害廃棄物処理計画についてご紹介がありましたが、事務局の方から、市の取り組みと市民への普及活動をこれからどうしていくかについて、説明をお願いします。

○環境政策課長

ご意見ありがとうございます。木谷畑委員がおっしゃるとおり、自治会町内会や市民の皆様への災害廃棄物に関する周知が不足していることについては重々認識しております。今年の10月からごみの分別を変更する際に、ごみトークを実施し、連合町内会や各自治会町内会の方にお話しさせていただきました。災害廃棄物についても同様に、自治会町内会や市民の方々にはしっかりとご説明させていただくため、現在準備を進めさせていただいております。

○佐藤委員長

ありがとうございます。木谷畑委員、いかがでしょうか。

○木谷畑委員

横須賀市全体に関わることであり、また、自治会町内会の数も多いため、予定を立てて計画的に進めていただければと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。（米村委員が挙手しているのを見て）はい、米村委員。

○米村委員

災害について、鎌倉市では毎年各町内会で防災訓練を実施していますが、その際に災害廃棄物の扱いについて周知すればよかったと思いました。横須賀市で防災訓練を実施する際に、

災害廃棄物についての情報提供をしてみたいかがでしょうか。

○環境政策課長

ご意見ありがとうございます。今年度から各災害避難所へ市の職員が出向いており、私共も実際に何回か行かせていただいております。その際に、トイレや食料の話はしますが、確かに災害廃棄物の処分や避難所で発生したごみの処理につきましては、我々も市民の方に対してあまり周知啓発ができていないと考えておりました。今後、このような場でも周知させていただきたいと思っております。

○佐藤委員長

ありがとうございます。事務局へのお願いになりますが、災害廃棄物処理計画についても、ごみトークの際に具体的な説明をして、普及していただきたいと思っております。

他にご意見、ご質問ありますでしょうか。上田委員、いかがでしょうか。

○上田委員

先ほど木谷畑委員からもお話しがありましたが、私の地域でも避難所運営訓練を行っています。実際に災害が起きた場合、避難者が学校を使って生活することになります。

また、災害が起きると瓦礫などの災害廃棄物が発生し、仮置場を作らなければなりません。

避難所と同じ場所に仮置場ができてしまう可能性も考えられますし、また、他の場所に仮置場を作るとしても、かなりの災害廃棄物が搬入されることになると思っております。

そのため、ぜひ避難所運営訓練の際に、災害が発生するとどのような状態になるか、啓発していただけるとありがたいです。

○佐藤委員長

ありがとうございます。（織田委員が挙手しているのを見て）はい、織田委員。

○織田委員

14 頁の取り組みの中に、横須賀総合高等学校の生徒の方に啓発ポスターのデザインを作成いただいた旨の記載があります。私が青少年関係で携わっているものと、市内 23 の中学校の生徒の皆さんに、非行防止のポスターの募集を毎年かけており、100 点ほど集まっています。そして、その中には子供目線の斬新なポスターもあります。

これまでの啓発は、行政や大人の目線で作られているものが多いように感じますが、例えば海洋プラスチックや災害廃棄物、家庭ごみ、事業ごみなどのテーマで市内の中高生にポスターの募集をかけると、新しい角度から啓発のアイデアが挙がるのではないのでしょうか。

○佐藤委員長

ありがとうございます。市民目線、特に中高生の目線を取り入れてみてはどうかというご意見をいただきました。

他にご意見、ご質問ありますでしょうか。長谷川委員、いかがでしょうか。

○長谷川委員

12 頁に高齢者等のごみ出し支援とありますが、その内容について教えていただけますでしょうか。

○廃棄物対策課長

福祉サービスでカバーできない方に対してのケアを環境部で行っています。例えば、ヘルパーの方が収集時間までにごみを出すことができない場合や、ご家族・地域の方が支援できない場合に支援収集を行っています。

65 歳以上であることや、要介護 2 以上であること、住民税非課税世帯であることなどが条件となります。また、特別な理由がある方々に対してもケアをしています。

現在は市内約 60 件弱を対象としており、週 1 回各戸収集で、4 分別のごみを一括で回収しています。

○佐藤委員長

ありがとうございます。ごみ処理基本計画の進行管理については、大筋で計画の足取りを本審議会で評価できているのではないかと思います。

(3) 食品ロス削減推進計画について

○佐藤委員長

続きまして、議事 3 の「食品ロス削減推進計画について」の説明を、事務局よりお願いいたします。

○事務局

(資料 3 及び計画素案について説明)

○佐藤委員長

ありがとうございます。ただいまの事務局のご説明によりますと、今回お示ししている計画は素案になりますが、審議会の委員の皆様から意見をいただき、計画の大筋を補正していきたいという意図だと思います。

私の方から確認させていただきたいのですが、資料 3 の 2 (4) の数値目標設定の考え方で、「基準値と比較」とあります。家庭系食品ロスについては、計画素案 11 頁に記載されている 4 か年平均の数値が、最終年度の令和 11 年度には 3 %削減されているか評価したいという意味合いでよろしいでしょうか。

○事務局

委員長がおっしゃるとおり、どこを基準とするかということもありますが、家庭系食品ロスについては、この 4 か年の平均値が現状で算出できる数値となっておりますので、基準値という表現が適切かどうか、確認が必要ですが、この数値をもとに削減していくこととし

ています。

○佐藤委員長

資料3の3の今後のスケジュールについて、今年度のスケジュールを立てており、今回と2月の審議会でもいただいたご意見を反映したものをパブリックコメントで案として市民の方にお示ししご意見をいただく流れだと思いますが、3月の審議会を確認する計画は第一次案のようなものでしょうか。それとも、案としてではなく、確定したものになるのでしょうか。

○事務局

今回と次回の審議会でご意見をいただくとともに、パブリックコメントでも市民の方々から様々なご意見をいただけたらと思っております。それらの意見を踏まえて、3月の審議会では最終案としてお示しできればと考えております。

○佐藤委員長

ありがとうございました。それでは委員の皆様からご質問ご意見をいただきたいと思いません。北村委員、いかがでしょうか。

○北村委員

計画の素案については、来年の2月の審議会であらまし決めるということでしょうか。今回と次回でアウトラインを決めなくてはいけないと思うと、スケジュール間隔が短いように思えます。

○佐藤委員長

ありがとうございます。他にご質問やご意見はありますか。（織田委員が挙手しているのを見て）はい、織田委員。

○織田委員

家庭系食品ロスと事業系食品ロスの2つに分かれており、事業系に関しては10頁に小盛での提供や卓上三角柱・ポスターの使用など啓発例の記載がありますが、家庭系に関しては啓発例の記載がありません。

家庭だと、10軒あれば10軒とも家族構成や食品の食べ方に違いがあり、家庭に向けた啓発を行い食品ロスの削減をするのであれば、高齢世帯や子供がいる世帯など、様々な世帯パターンに対して、例を示したほうが良いと思います。例えば、高齢世帯ですと、小分けで売っているものがないと多めに買うことになり、食べきれなくて捨ててしまうこともあると思います。また、子供や学生がいる世帯だと、料理を用意してもお出掛け等により家でご飯を食べない場合もあると思います。

そういった具体的な家庭のライフスタイルや生活パターンに対応していただけると、啓発される側としては「どのようなことをすればいいか」イメージしやすいのではないのでしょうか。

○佐藤委員長

ありがとうございます。織田委員から様々な世帯があるとお話いただきましたが、計画の素案を作る際に、組成調査データのまとめ方に関する説明が不明確だったのではないかと思います。

様々な世帯があるため、平均的かつ隔たりのない組成調査データを使用していることを記載してはどうかと思いました。

(米村委員が挙手しているのを見て) はい、米村委員。

○米村委員

食品ロスの中には、家庭に眠っている潜在的な食品ロスがあるのではないかと思います。最近よくテレビで断捨離に関する番組を目にします。食品庫から食品を出してみると、乾麺や缶詰などの保存できる食品が大量に出てきます。私自身も自宅で実際にやってみたところ、買ったかどうか覚えていないようなものが2割近くありました。保存食は賞味期限前のものが多く、そういったものがフードドライブやフードバンクに出せるとなると、ご家庭の整理もできるため喜ばれるのではないのでしょうか。

廃棄物だけではなく、廃棄物予備軍のようなものについても考えていく必要があると思いました。

○佐藤委員長

ありがとうございます。(筧委員が挙手しているのを見て) はい、筧委員。

○筧委員

家庭への啓発については、読む・読まないはさておき、ホームページや広報物等でやっていくしかないと思います。高齢者がいる場合や子供がいる場合で家庭環境が異なり、例えば私の家庭の場合ですと、食パンが2枚売りだと嬉しいのですが、6枚切りや8枚切りだと困ってしまいます。このような販売側の努力があると非常に助かります。

また、私が認知症サポーターをやっている中で、高齢の方は食事を大量に残すことが多いという話を聞きます。高齢者施設や給食では、配給の際は少量で用意し、足りなければおかわりする方法がいいのではないかと思います。

続いて、計画素案 11 頁の数値目標についてです。家庭系食品ロスについては、4か年平均の7,610 トンから3%減で7,382 トンとするとのことですが、人口減等による推移はどのようにお考えでしょうか。横須賀市の人口は40万人を下回り約38万人ほどだと思いますが、そのうち20万人ぐらいになってしまうのではないかと考えています。極論でいうと、人口が減少しているため、何もしなくてもごみ量は減少すると思いますので、数字としてどのように考えているかお聞きしたいです。

また、先ほどの議事の中で廃棄物対策課長から説明のあった高齢者等の支援収集について、認知症が悪化するとごみを出す際に、今日が何曜日で何ごみを出さないといけないか分からなくなる方がいらっしゃいます。出すごみの種類を間違えると近所の方からお叱りを受け、引きこもってしまうというお話も聞きますので、サポートしていただいていることは非常に

嬉しく思います。以上です。

○佐藤委員長

ありがとうございます。筧委員のご意見に対して、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局

ご意見ありがとうございます。委員がおっしゃるとおり、人口減少により自ずとごみは減少すると思います。また、世帯の種類やパターンの違いにより、食品ロスの量が減ることがあっても増えることはないと考えています。

食品ロスの数値目標については、ごみ処理基本計画に合わせる形で3%減としています。

ごみ処理基本計画では、施策により人口減少からさらに3%減らす考え方で数値を設定しているため、食品ロスについても人口減を加味し、きちんと考え方を整理したうえで、市民の皆様にとってわかりやすく、目標を意識していただけるような形で数値を設定して表記したいと思います。

また、先ほど食パンを例に挙げたお話がありましたが、確かに事業者の工夫は目にする機会が多いと考えています。これらは同計画の中に紹介という形で記載できるのではないかと考えています。事業者の先進的な取り組みについては、まだお気づきでない市民の方々に周知できるような形で、計画の中に盛り込む必要があると思っております。

○佐藤委員長

ありがとうございます。青委員、いかがでしょうか。

○青委員

昨年ほぼ1年間ヨーロッパで生活していましたが、ヨーロッパでは生ごみを焼却している国はありません。そう考えると今の日本は遅れているように思います。途上国にも行きましたが、途上国では食品が不足しているため、当然捨てることもありません。なので、日本はやはり贅沢であり、食品ロスは、生活のスタイルがそのようになってきたからこそ起きる問題だと思います。

また、食品の問題について言うと、世代間の問題があると思います。事業者と市民というイメージに分かれています。市民といっても年齢層によって変わってくると思います。先ほど、パンの話がありましたが、私がアメリカやヨーロッパで生活していた際には、グラム単位で食品を買うのが当たり前の世界でした。例えば、バナナ1本食べたいとなったら、海外では日本のように高価なものを1本買う人はおらず、公平にするためグラムで買えるようになっています。

1人でお住いの高齢の方が袋に入った5本入りのバナナを買っても、それを一気に食べられるわけではございませんし、若い人のように凍らせて食べるわけでもないと思いますので、バナナ1本やジャガイモ1個からグラム単位で買えることは、高齢者にとって生活の助けになると思います。

海外では、こういったことを事業者と一緒に考えていく社会が前提になっていると

思います。実は、事業者と消費者を結ぶアプリが既に世界では多く活用されています。このようなアプリを使われる方は、比較的若い年代の方が多いです。こういったシステムは、実は日本でも普及しておりまして、例えば、ビジネス型とコミュニティ型というのがあります。ビジネス型だと「Too Good To Go」というものがあります。これは世界 17 カ国で 2000 万人以上の人が現在利用しています。

日本でも利用されており、都市部を中心に、飲食店や食料品店で廃棄が近くなった生鮮品を含む食品を、アプリを介して消費者が買い取ることができるようになっています。特に、東京や神奈川の都市部に住む若い方が使うようになっています。2020 年以降、新型コロナウイルス感染症の影響もありまして、販売数の推移は非常に目覚ましいものがあります。皆さん使われていて、2017 年以降始まっていますが、世界で通算 2 億食分の食品ロスを削減できています。

もう 1 つ、イギリスで生まれた「OLIO」というものがあります。世界 63 カ国で 700 万人が利用しております。通算 1 億 3000 万食分の食品ロスを削減できています。

このようなアプリは消費者同士でやり取りをするコミュニティ型と、食料品店と消費者でやり取りするビジネス型に分かれます。消費者同士だと、洋服などの取引ができるフリマアプリが日本にもあり、こちらに非常に似ていますが、この場合は誰が出品しているのかわからないので食品だとリスクがあります。そのため、食料品店が出品したものを消費者が買うビジネス型が今は増えています。

ただ、このようなコミュニティ型・ビジネス型アプリによって、実は皆さんが想像されるよりも多くの方が日本でも利用されるようになってきており、その分やはり食品ロスが減ってきています。

こういったアイデアをどうやって市民の方に伝えていくのか、また、世代に応じたやり方で行動変容にどうやって結びつけるかについては、私達も議論すべきところだと思っています。省エネと一緒に、ただ単に電気を消すという話し合いをいくらやってもきりがないので、新しい世代の人たちを巻き込んで、また、高齢者が買いやすいようスーパーマーケットの方たちにもご協力いただくような、世代に合った食品ロスの方法を考えていく必要があると思います。

また、食品ロスに関しては、アフターマーケットをどのように作るかということも重要だと思います。食品ロスについては、たい肥にする方法もありますが、それだけではとても不十分だと思います。例えば、日本の現状ではプラスチックのリサイクルも始まっていますが、プラスチックのリサイクルにどこまでアフターマーケットが作られていて、そのアフターマーケットに合わせたものをどれだけリサイクルして提供できているのかどこにも数字がありません。こういったところを数値化しながらちゃんと情報を公開していくことがこれからは必要ではないかと思っています。

○北村委員

アフターマーケットとは何ですか。

○青委員

アフターマーケットは、次何に利用するかを表します。今申し上げたように、プラスチックのリサイクルされたものを次の製品作りにどうやって取り入れるかがアフターマーケットになります。つまり、今求められているサーキュラーエコノミーという社会には捨てるという概念がありませんが、次に作られていくものがなければ、リサイクルだけをやり続けてもコストがかかり、結局はリサイクルをしても捨てなければなりません。このような無駄をなくするためには、どうやってアフターマーケットを作るかが大事になります。

食品ロスのアフターマーケットについては、廃棄されたものをエネルギーにするだけでなく、様々な活用方法が世の中にあります。しかし、当然ながらアフターマーケットは1自治体だけで作れるものではないので、広域的にどのように作るか、創造的な計画を考える必要があります。

市民の方も意識がないのかというと、そういうわけではないと思います。意識はあっても次に何をしたらいいかが分からなければ、結局そこから何も考えなくなってしまいます。私が今回1年間の中で長く住んだのはスウェーデンのウプサラという大学街で、そこに走っているバスの8割が生ごみと下水汚泥からできたバイオマスガスを使って走っています。また、バスの後ろには捨てられたごみの絵があり、ごみがエネルギーに変わったということがわかるようになっています。自分たちがちゃんと生ごみを出せば、エネルギー化されて自分たちが乗るバスに使われるということが一目でわかります。

広告も、ただポスターを作ればいいというのではなく、そのポスターの意味をアフターマーケットと繋がるように考えて、「なにをすればいいか」が小学生でもわかるような社会を作ることが大事だと思います。理想と言われるかもしれませんが、私はその理想の社会から戻ってきました。

○佐藤委員長

ありがとうございます。食品ロス削減推進計画の対応策について、貴重な意見をいただきました。（米村委員が挙手しているのを見て）はい、米村委員。

○米村委員

先ほどのお話に関連しますが、アフターマーケットの話を考えるときに必要なことは、結局それをやるのはほとんどの場合が企業であることです。

そうなると、受け入れる側の企業にとっては、量的に安定供給されるか、品質管理がきちんとできているか、そういうのが大変重要な問題になります。実は、30、40年前に東京都内の魚あらを処理する業者がゼロになりました。

東京都中の魚屋さんや、その前の問屋さんが全部ごみにするしかなくなったときに、草加市にベンチャー企業で魚あらをリサイクルする企業を立ち上げたところがありました。

品質管理について厳しく指定しながら、ある一定の品質をクリアできたものについては高値で買い取り、保冷車で回収していました。魚あらは普通、肥料や飼料になりますが、その企業はもう一段工夫して、魚油を抽出し食品等の原料として製品化し企業として成功しています。周辺環境への臭いについては、ご苦労をされて公害対策をきちんとやって、うまく回

るようになったと聞いております。

時代の変化に合わせながら、行政レベルでは情報収集を行い、対応を考えておく必要があると思います。

○佐藤委員長

ありがとうございました。米村委員からお話のありました草加市の事例につきましては、コラムに入れるといいのではないかと思います。（筧委員が挙手しているのを見て）はい、筧委員。

○筧委員

先ほど青委員からプラスチックに関するアフターマーケットのお話がありました。私はコンピュータの会社に勤めた後、プラスチックの会社で仕事をしていました。審議会の委員札や居酒屋で宣伝に使われているプラスチックなどがありますが、私はコンビニの募金箱を作っていました。こういったプラスチックはリサイクルされていますが、燃やされて二酸化炭素を出している部分のほうが大きいです。プラスチックのアフターマーケットについては、市や県、国が働きかけないと実現できないと思います。以上です。

○佐藤委員長

ありがとうございました。委員の皆様から貴重なご意見をたくさんいただきました。行政として計画を作るという点では、現状を評価し、そのうえで令和 11 年度に食品ロスの量が人口減プラス 3%減となるような計画を作る必要があると思います。そして、横須賀市としてそれに足る対応策として、「これだけのことを考えている」ということが分かるような計画にしていただければと思います。（青委員が挙手しているのを見て）はい、青委員。

○青委員

議事（2）のごみ処理基本計画の進行管理について、評価方法が A・B・C の 3 段階でしたが、A・B・C・D・E の 5 段階に変えていただけないかと思います。B の「一部実施した」と C の「実施しなかった」については D・E として、A の中身を 3 段階に分け、ただ単に「予定どおり実施した」ではなく、どのレベルでどういった形で実施したかによって分けていただくと分かりやすいのではないかと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございました。難しい意見だとは思いますが、実情に近い形での評価を審議会として望んでいるというご意見だと思います。今すぐのお答えは難しいと思いますので、次回の審議会にて事務局の考えをお示しただければと思います。

報告事項

（1）令和 5 年 10 月からの分別変更の経過

○佐藤委員長

それでは報告事項に入ります。「令和5年10月の分別変更の経過」について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

(資料4について説明)

○佐藤委員長

ありがとうございます。おもちゃのリユースについては、最近マスコミでもかなり取り上げられており、皆さんも子育ての際に余ったおもちゃの処分については悩んだ経験があると思いますので、ぜひもっと広がってほしいと思います。

報告事項やこれまでの議事内容についてご質問、ご意見等のある方はいらっしゃいますか。嘉山委員、いかがでしょうか。

○嘉山委員

食品ロスについて、先ほどビジネス型とコミュニティ型のアプリがあるというお話がありました。私の知り合いのパン屋さんも、同業者とアプリを利用してお互いが食品ロスをなくすために頑張っているという話を聞いております。

また、他には、食パンの枚数のお話もありました。高齢者を意識したこういったパターンも必要だと思いますが、食品についてはただ単に量を減らすだけではなく、必要な食材を得て美味しいものを食べようとする努力をなくしては文化がなくなってしまうのではないかと思います。食品における文化やものを作る文化についても考えていくことが大事だと思います。

それと、先ほど報告事項の中で、プラスチックのお話がありました。プラスチックがどのように再生されているのか教えてください。

また、再利用について、エコミルで熱を利用することについては考えてらっしゃるのでしょうか。何でも燃やしてはいけないのではなく、それをまた活用し、二酸化炭素を放出するだけではなく他に変わるという取り組みは、大きな企業ではやっていると思いますが、横須賀市でもそれを考えるのであれば、市として1つの対策の案に入れてもいいのではないかと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。事務局からプラスチックのリサイクルと、エコミルの熱利用についてご説明をお願いします。

○事務局

ご質問ご意見ありがとうございます。プラスチックのリサイクルにつきましては、市内の事業者と連携し、先ほどご説明させていただいたプラスチック資源として収集し、中間処理、再商品化まで実施しております。PSやPE、POといったプラスチックの種類ご

とに米粒のようなペレットというものを再商品化製品として作っております。横須賀市の事業者の工場として作っているのはペレットまでで、先ほど青委員がおっしゃっていたアフターマーケットにつきましては、工場で重機を使ってものを動かす際に下に敷くパレットに再利用されています。現状では黒いペレットが作られており、白いプラスチックとしての利活用ができていないため、そのようなパレットとして再利用されていると伺っております。

○広域処理センター所長

エコミルでの熱利用について、エコミルではごみを燃やした熱を利用してボイラーで蒸気を発生させ、タービン発電機で発電しております。工場でする電気を賄い、余ったものについては電力会社に売電しています。また、エコミルで発電した電力は、市役所の本庁舎と追浜にあるリサイクルプラザアイクルに供給しています。

先ほど委員から二酸化炭素を集めての利活用についてお話がありましたが、それについては今の時点では実施できておりませんので、今後の課題としてとらえていきたいと思っております。

○佐藤委員長

ありがとうございます。藤田委員、お願いします。

○藤田委員

食品ロスについて、先ほど認知症患者や高齢者施設のお話がありましたが、やはりこのようなところでは食べ残しが出てしまうと思います。ですが、買っておかなくてはいけないということで、ある程度は仕方がないと思ってしまう部分もあります。

それと、議事（２）のごみ処理基本計画の進行管理の中で、集団資源回収の説明がありました。表の数字からも分かるように、集団資源回収の量は減少しています。本当は集団資源回収が増えてごみが減ることが一番良いですが、朝日新聞が中京圏で夕刊を廃止したような背景もありますので、集団資源回収が増えることはないと思います。ただ、資源回収の減少は燃せるごみの増加にも関連してくると思うので、燃せるごみを減らしていくには資源回収がいいと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。資料４の（１）の変更内容の③に古着古布類の記載がありますが、古着古布類が集団資源回収の対象となって増えたということでしょうか。

○藤田委員

もともと古着古布類は集団資源回収でしたが、集団資源回収として回収できる品目を増やしました。皮の衣類なども受け入れ可能な搬出先に変更しています。それと、今回回収対象になったのは綿入りの衣類になります。綿入り衣類を出していいと言ったところ、今度は資源回収に布団が出されてしまうことがありました。分別変更を行う際に、市と話し

合いもしましたが、綿については綿入りやキルティングなど表現を変えて書いてもらったほうが、もっとうまくいったのではないかと思います。

なぜ衣類は綿入りでも大丈夫かという、横須賀で集めた衣類はすべて組合で売っており、売り先も組合で探しております。現在は九州の福岡に搬出しており、そこでは色々なものを取ってくれています。新型コロナウイルスの影響が9月と10月はあまり排出量がなかったですが、ここ最近では排出量が増加しており200トン近く排出されるようになりました。

○佐藤委員長

ありがとうございます。綿入りという表現については資料を直していただければと思います。また、食品ロス削減推進計画における家庭ごみの食品ロス調査について、環境省などのマニュアルに基づいて調査を実施し、3ページに写真をつけて記載していると思いますが、特異な条件だけにならないようランダムに調査している旨を追記してもらったほうが良いと思います。計画の充実のために、そういったところも補足していただければと思います。

その他

(1) 今後のスケジュール

○佐藤委員長

続きまして、事務局の方から今後の予定等のご連絡事項があればお願いします。

○事務局

本日の議事概要につきましては、出席された委員全員に内容のご確認をいただいた後に、公開とさせていただきます。議事概要(案)は、作成次第、各委員に送付いたしますので、発言内容等のご確認をよろしくお願いいたします。また、食品ロスやごみ処理基本計画の進行管理についてのご意見等々ございましたら、議事概要(案)の確認のご返答の際でも構いませんので、いただければと思います。

また、次回の審議会の開催につきましては、2月を目途に調整をさせていただければと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○佐藤委員長

本日はお疲れ様でした。これをもちまして、横須賀市廃棄物減量等推進審議会を閉会いたします。

以上